

## 健 康



影本 開三

徳島大学病院がん診療連携センター特任助教

**回答** 大腸がんと診断された場合、他のがんと同じく病変の広がりをみて、治療方針を決定します。早期大腸がんであれば、内視鏡治療（大腸カメラ）により切除できる場合があります。進行しても、リンパ節転移などが大腸の近くにとどまる場合は外科手術が行われます。肝臓や肺など遠くの転移がみられる場合、手術を行うこともあります。がん治療が中心となります。

おそらく相談された方は転移があり、手術の難しい状態と思われます。最近では、がん細胞に特有の遺伝子異常を調べることで、それらをターゲットとした分子標的薬が次々と開発されています。このような個別化治療が進んでおり、従来の抗がん剤と併用することで治療効果が期待されま

**質問** 親戚が大腸がんと診断され、抗がん剤治療を受けるようです。入院せずに治療することができですか。父親も大腸がんでした。早期発見が大事と聞きますが、どのような症状に注意すればよいですか。

## 個人に合わせて方針決定

腫瘍の位置	右側大腸がん		左側大腸がん	
	盲腸・上行結腸 横行結腸	直腸・下行結腸 S状結腸	○	○
腹痛、吐く	△	○	○	○
貧血	○	○	○	○
血便	△	○	○	○
便柱狭小化	—	○	○	○
排便習慣の変化	△	○	○	○
腫瘍触知	○	△	○	△

がん治療は日常生活を送りながら継続していくことが重要で、治療内容にもよりますが、外来通院しながら行なうこともできます。外来化学療法室では主に抗がん剤の点滴です。がん治療は日常生活を送りながら継続していくことが重要で、治療内容にもよりますが、外来通院しながら行なうこともできます。外来化学療法室では主に抗がん剤の点滴です。がん治療においては早期発見が重要です。血便や便通異常、腹痛、貧血などが大腸がんの症状としては有名ですが、そのほとんどが進行してから治療を行っており、徳島大学では平均して月90件ほどの治療をしています。医師、薬剤師、看護師、栄養士、医療ソーシャルワーカーなど多職種の専門家が協力し、副作用や食事、生活状況を確認しながら患者個人に合った治療を進めています。



**がん何でもクイズ**  
予防接種で防ぐことができるがんは何ですか。  
①乳がん②子宮頸がん③胃がん  
行こうよ！がん検診

がんに関する質問は  
徳島がん対策センター  
電話 088 (634) 6442  
(平日午前 8時半から  
午後5時まで) へ。

## 症状なくとも検査重要

進行した時に出現しやすい症状が多いと言われています。このため、内視鏡で症状のない段階での検査が望れます。大腸がんはポリープなどの前がん病変から発がんすることが多いと言われています。このため、内視鏡でポリープを経過観察もしくは切除することで、大腸がんのリスクを低減することができます。

大腸がんの危険因子としては年齢（50歳以上）、大腸がんの家族歴、肥満、過量のアルコール、喫煙などがあります。その中でも最近は家族歴が重要視されており、近い血縁で大腸がんの方がいる場合は一度、内視鏡検査を受けることをお勧めします。